

第42回 統計委員会 議事概要

1 日 時 平成23年1月26日(水) 15:59~17:20

2 場 所 中央合同庁舎第4号館12階 共用第1208特別会議室

3 出席者

【委員】

樋口委員長、深尾委員長代理、縣委員、阿藤委員、安部委員、井伊委員、椿委員、山本委員

【統計委員会運営規則第3条による出席者】

《国または地方公共団体の統計主管部課の長等》

内閣府経済社会総合研究所次長、内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官、総務省統計局長、総務省統計局統計調査部長、文部科学省生涯学習政策局調査企画課長、厚生労働省大臣官房統計情報部長、農林水産省大臣官房統計部長、経済産業省経済産業政策局調査統計部長、国土交通省総合政策局情報安全・調査課長、日本銀行調査統計局審議役、東京都総務局統計部産業統計課長

【事務局等】

乾内閣府大臣官房統計委員会担当室長、杉山内閣府大臣官房統計委員会担当室参事官、池川総務省政策統括官(統計基準担当)、千野総務省政策統括官付統計企画管理官

- 4 議 事
- (1) 諮問第28号の答申「社会生活基本調査の変更について」
 - (2) 諮問第30号の答申「生命表の基幹統計としての指定について」
 - (3) 諮問第35号「季節調整法の適用に当たっての統計基準」の設定について
 - (4) 部会の審議状況について
 - (5) 委員及び専門委員の指名について
 - (6) その他

5 議事概要

(1) 諮問第28号の答申「社会生活基本調査の変更について」

阿藤人口・社会統計部会長から、資料1に基づき、答申案の内容の説明があり、原案のとおり採択された。各委員の主な意見等は以下のとおり。

- ・「ふだんの健康状態」の調査事項については、有業者のみが対象となっているが、健康上の理由から仕事を辞めてしまった場合の情報が把握できない可能性がある。将来的には有業者だけでなく、無業者も対象とすることが必要である。
- ・「ふだんの健康状態」については、諮問案では就業行動と結びつけた設問となっていたが、部会審議の中で、単に健康状態を段階的に区分する設問とし、集計の段階で就業行動と結び付けて分析できるようにする方向で修正。さらに有業者だけでなく無業者も含めて健康状態を尋ねるべきとの意見もあったが、調査票の全面的な改定となることから、次善の策として、部会メンバー全員のコンセンサスを得て、答申案の結論を得たところ。

→次回以降の検討の際に引き継がれるように、指摘があったことを委員会の議事録にも明記したい。

(2) 諮問第 30 号の答申「生命表の基幹統計としての指定について」

阿藤人口・社会統計部会長から、資料 2 に基づき、答申案の内容の説明があり、原案のとおり採択された。

(3) 諮問第 35 号「季節調整法の適用に当たっての統計基準」の設定について

佐藤総務省統計審査官から、資料 3 に基づき、諮問内容の説明が行われ、その後、本諮問については、統計基準部会に付議されることとなった。

(4) 部会の審議状況について

①医療施設調査の変更並びに患者調査の変更及び患者調査の指定の変更に関する審議状況について、資料 4 に基づき、人口・社会統計部会の阿藤部会長からの報告があった。各委員の主な意見等は以下のとおり。

・今回の諮問案では、行政記録情報等の活用により削除する調査項目が多かったが、部会審議では、行政記録情報等で得られるとしても総数のみである場合や、他の調査項目とのクロス集計ができない場合など、調査項目の削除によって情報が失われることを懸念する意見があり、そうした点は再検討することとされている。

・行政記録情報等から得た情報が統計として利用できるかという論点もある。

②国民生活基礎調査に係る匿名データの作成に関する審議状況について、資料 5 に基づき、匿名データ部会の榑部会長からの報告があった。また、榑部会長から、本部会の審議内容の特殊性に鑑みて、総務省統計局の 4 調査の匿名データの作成に係る部会審議（平成 21 年 1 月～2 月）に参画していただいた津谷委員と廣松委員を、次回以降の部会審議に追加することについての提案があった。各委員の主な意見等は以下のとおり。

・国民生活基礎調査は非常に多くの情報を収集しており、様々な視点からの分析が可能のため、その視点によって提供すべき情報も変わってくる。例えば、最低賃金と生活保護給付の関係を分析したい場合、両者は地域ごとに決まるため、地域情報についてどこまでニーズに応えられるかが問題。都道府県別データの提供は難しいと聞いているが、利用者ニーズがあると思うので検討して欲しい。

・所得項目等にトップコーディングをかけた場合、高額所得者の実態が分からなくなるため、ジニ係数などを用いた分析ができなくなる恐れがある。研究者としては、トップコーディングをかけた階級の平均値を提供するなど、公表統計との整合性も踏まえた検討をしていただきたい。

→研究者としてのデータの有用性という観点から重要な指摘。リスクを回避し、かつジニ係数等の分析指標にバイアスが生じない提供方法が可能かに関して、論点メモに追加し、次回以降検討したい。

(5) 委員及び専門委員の指名について

樋口委員長から、榑匿名データ部会長の提案も踏まえ、資料 6 に基づき部会に属すべき委員及び専門委員の指名についての報告があった。

(6) その他

次回委員会は、2月24日（木）の16時30分から開催される予定。

以上

<文責 内閣府大臣官房統計委員会担当室 速報のため事後修正の可能性あり>